

# 令和 4 年度 学校評価報告書

園 名	松が丘幼稚園
-----	--------

## 1 教育目標

「元気な子 心豊かな子 たくましい子」 ・ 自己を発揮し、のびのびと活動する子を育む ・ 友だちと思いを伝え合い、心を通わせて遊ぶ子を育む ・ 自ら考え、工夫し挑戦しようとする子を育む
---

## 2 重点目標

『自分らしさを発揮し、共に育ち合う子の育成』 ～友達とのかかわりの中で育まれる力を見取り、 教師の援助のあり方を探る～
4 歳児 安心した園生活の中で、友達とかがわり合って遊ぶ楽しさを味わう。
5 歳児 友達と互いに認め合いながら、主体的に遊びや生活を進める楽しさを味わう。

## 3 自己評価結果

分野領域	評価項目	幼稚園の取組状況・改善の方策
教育課程	学びに向かう力を豊かに育む保育内容の工夫 ・ 幼児一人一人が十分に自己を発揮し、友達と協同して遊びを進めていく環境や保育内容、援助の工夫 ・ 4,5 歳児が共に育ち合える遊びや活動の工夫 ・ 幼児一人一人の課題や発達する姿に応じた関わりや環境構成の工夫	・ 今年度は、幼児が友達に思いを寄せる姿に視点をあて、学びに向かう力の読み取りに努めた。 ・ 4 歳児が友達や 5 歳児に関心をもち、憧れの気持ちが膨らむことで、自ら意欲的に取り組んだり、友達と一緒に挑戦したりする姿につながっていった。 ・ 5 歳児は、自分たちで考え決定していく活動を通し、困難を乗り越えたり成功体験を積み重ねたりし、協同して遊ぶ楽しさが味わえるようになっていった。 ・ 個々の幼児の持ち味を受け止め合い、活かし合える関係づくりが大切である。
子育て支援	親と子の交流や育ちの場としての役割、機能の充実 ・ 2,3 歳児プレ保育や園庭開放における活動内容の工夫 ・ 親と子が安心して集える場や情報発信の工夫	・ 次年度から 3 歳児保育が始まることもあり、保育体験での遊びや交流が、幼児と保護者の安心につながっている。 ・ 園庭開放では、季節のお話や「わらべうた」を楽しみ、保護者の気づきや交流にもつながった。 ・ 3 歳児保育への不安や、園での生活について等、保護者の相談に応じ、関係づくりに努めている。
保護者との連携	園運営、園行事への保護者や地域住民の参画 ・ 行事や PTA 活動のもち方を工夫し、保護者同士のつながりや、幼稚園教育への理解を深める	・ 保育参観や園行事については、保護者が参観しやすい時間を設定し、実施することができた。 ・ 幼児の活動の様子や園で大切にしている内容等を通信やホームページ等で発信している。 ・ PTA 活動の内容については、保護者と相談して進めているが、ミニバザーの開催は、負担が大きかったため、見直していく必要がある。
学校園所連携	保幼小中連携と小学校との円滑な接続をめざした取り組みの推進 ・ 幼小の様々な交流機会や職員連携の工夫 ・ 中学校区連携推進への参画	・ 小学生との交流「なかよしタイム」を、年間を通して 20 回以上もつことができ、異年齢のかかわりや年上の人と遊ぶ経験を楽しむことができた。 ・ 各学年との交流、小学校の授業見学、行事前の交流等をもつことで、小学生への親しみがふくらみ、小学校に対する幼児の安心感につながっている。 ・ 職員間による保育・授業の相互参観、小学校教員との連携等を通し、幼児・児童の姿や育ちの段階を共有することができた。

## 4 学校関係者評価

・ どの行事を見ても、一人一人が自信に満ち溢れていて、十分に自己を発揮できていた。 ・ 園児が自ら進んで興味をもったことに取り組むことができる環境づくりができていると感じた。特に、道具の収納などの工夫はよく考えられていて、素晴らしい。 ・ 少人数の園だからこそ、先生方の目が行き届いており、園児がやりたいことを十分にさせてもらえる環境が素晴らしい。 ・ 行事等では、子ども達の成長がよく分かり、友達と協力して取り組む姿も見ることができた。
・ 先生方や保護者の関係づくりは、とても良好だと思う。不安を減らし、安心して入園できるので、とても良いと思う。 ・ 「ふれあいひろば」では、「わらべうた」を取り入れた内容を工夫されていて、親子での楽しい時間となっている。1 年を通じて、園児達も積極的に参加できた。
・ 保護者の人数が少ないので、その負担について工夫して進めることは、今後も課題になってくる。 ・ 園児の活動や様子については、掲示板、HP、手紙と、こまめに伝えてくれ、保護者にとっては有難いだろう。 ・ PTA の活動を、園はよく理解してくれていると感じる。大変なこともあるが、良い経験となっている。
・ 「なかよしタイム」「トライやる」など、年齢の違ったたくさん子ども達と関わることを楽しんでいた。 ・ 小学校との関わりが多く、園児の進学不安が少ない。進学後も「なかよしタイム」で先生に会えるのも、安心につながると思う。 ・ 小学校との連携は、親にとっても有難い取り組みなので、今後是非頑張っていたいただきたい。

(別紙様式 2)

資 質 研 修 向 上 の 取 組	幼児の内面理解につながる研修の工夫 ・遊びや生活の中における幼児の姿を通して、幼児の内面を多角的に読み取る ・職員間でカンファレンスを繰り返し、援助のあり方を探る	・職員間で幼児の姿を共有し、幼児の内面の読み取りに努めた。様々な読み取りをすることで、適切な援助ができるため、職員間での連携の大切さを再確認することができた。 ・幼児が友達に思いを寄せていく姿に視点をあて語り合うことで、一人一人を大切に保育や、幼児に寄り添う教師の姿勢についての気づきが多くあった。	・先生同士の連携がよくとれていて、チームワークの良さを感じる。 ・どの先生もよく見てくださっていて、とても安心できる。 ・一人一人の個性を大事にし、子どもの「やりたい」と言う気持ちをそっと後ろから押してくれるような寄り添いがよい。
----------------------	---	--	---

## 5 総合的な評価結果

幼児が自分らしさを伸び伸びと発揮していくためには、情緒の安定が大変重要である。幼児一人一人の思いに寄り添い、安心して幼稚園生活を送ることができるよう、職員の連携を図りながら取り組みを進めてきた。心の安定をもとに、幼児の“人とかかわる力”が生まれ、友達とイメージを共有しながら遊びを進めたり、一緒にチャレンジしたりする姿が見られた。

4, 5歳児のかかわりを通して育まれる力は大きく、“あこがれ”“思いやり”“意欲”“自信”“自制心”など、様々な力を読み取ることができた。4歳児の3学期になると、教師の声かけや任せる活動により、進級への期待が大きく膨らんでいる。

また、年間を通して、小学校との連携を図り、5歳児の就学を見据えた交流内容を工夫することができた。

## 6 総合的な学校関係者評価

- ・園児が伸び伸びと個性を活かしながら成長しており、温かく見守ってくれる先生の関わりにより、園児の自信につながっている。
- ・入園前から卒園後、小学校との関わりの中で、子どもの成長を支えてくれる環境が整っているため、継続して大切にしたい。
- ・園児数が少なく、他者とかかわりが限られる環境ではあるが、発表の場や友達との関わりの中で、意見が言いやすい場面づくりや自分の得意とするところを発表する機会を多く作り、個々の自信につなげる結果が得られている。
- ・園児だけでなく、保護者に対する寄り添いも温かく、共に子どもの成長を見守ることができた。